

「リーダーズキャンプ」とは

「リーダーズキャンプ」とは、文化・体育両総部に所属する各団体および学科会、同好会、学寮のリーダーが2泊3日にわたり生活を共にして、分科会や講演、各班での交流を通じて天理大学の学生団体のリーダーとしての資質向上を図り、相互の親睦を深める伝統の行事で、今回で49回を数える。今年は2月9日から11日まで国立曽爾青少年自然の家で開催され、スタッフを含む約250人が参加した。



会場の国立曽爾青少年自然の家

天理大学の校歌を練習。愛校心がまずリーダーの第一歩



顔合わせの班別ミーティング

ゲームでアイスブレイキング



リーダーとは？いろいろな人の話を聞いて考えを広める

楽しい食事タイム。ここでも交流の輪が広がっていく



「リーダーとは？」班ごとに意見をまとめて発表の準備

いよいよ3日間の成果を発表。各班が考えるリーダー論を発表



仲間との信頼関係を築くこと、責任感を持つこと、優しさが必要だと学んだ。

自分から求めることや楽しくなるように周りを見ることの大切さを学んだ。

仙田 亮 (国文学部国語学科4年・仙之内北寮)

自分の弱さや強さを知ることができたし、人の大切さ重みを深く感じました。

山口朋之 (人間関係学科3年・硬式テニス部副キャプテン)

これが Tenri University のリーダーだ！

第49回
リーダーズキャンプ
受け継がれる
「天理の誇り」



リーダーを育てる伝統の「リーダーズキャンプ」
49年もの間脈々と受け継がれる「天理の誇り」
真の天理のリーダーを目指す参加者のひと言！



リーダーに贈る
5つの言葉
国立曽爾青少年自然の家次長
上田 薫さん

天理大学のOBでもある国立曽爾青少年自然の家次長の上田薫さんが、リーダーズキャンプでリーダーたちに贈った「真のリーダーになるための5つの言葉」。はばたきの読者にも紹介しよう。

1. 「念すれば花開く」

私自身の教員採用試験での経験から、「何事も勝負をする前から負けの気持ちが少しでもあれば絶対に勝てない」ということが分かった。要は人がどうか、競争率がどうかではなく、自分が教員になる値打ちがあるかどうか勝負だと本当に思い、このことから「念すれば花開く」が私の座右の銘となった。

2. 「話す」と「語る」を使い分ける力を身に付ける

「話す」という字は、心に思ったことを「音(おと)」に出して表現し、さらに勢いを表す「舌」が付くので「勢いよく話す」こと。「語る」は、五の口だから「五感」、つまり自分のすべての感覚を研ぎ澄ませて音に出すこと。この二つをいろいろな場面で使い分ける力を身に付けてほしい。

3. 「理性」と「感性」

理性と感性を研ぎ澄ませて、人の心に向かっていかなければならない。例えばいじめにおける理性と感性で考えると、理性はいじめをしてはいけない、愚かなことだからいじめはしてはいけない、という分かり切ったこと。では感性とは何かと言えば、いじめられる側の痛み、悔しさ、怒りなどの心をつかろうとする力のこと。理性と感性、この二つをいろんなことに当てはめて考えてみてほしい。

4. 本当の「優しさ」を持とう

「優しさ」という文字は人の横に憂(うれ)いが立っている。武田鉄矢の「贈る言葉」という歌の歌詞に「人に優しいというのは、人の悲しみをたくさん知っている人」という意味の歌詞がある。本当の優しさとは厳しさでもあり、その人のことを思う気持ちが強い人が本当に優しい人だと思う。リーダーとして仲間を怒り、しかる場面が出てくるが、それには勇気がいる。怒った相手から距離を空けられてしまうことへの自分の怖さがある。だけど、リーダーとして絶対に避けたいいけない。その人のことを考えて本気でぶつかって行ったら、必ずリーダーがなぜしゃっているかの心が伝わる。

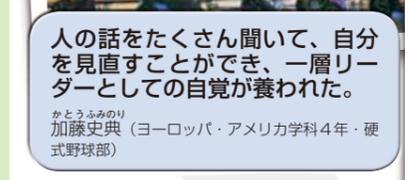
5. 財は人

人との出会いが私を成長させてくれ、今の私をつくっている。私の財産は何かと聞かれたら「財は人なり」と答える。そんな出会いをたくさんしてほしい。



いろいろな話を聞き、リーダーの形は決まっていなかった。他のリーダーの良いところなどを見たり感じたりして学び、リーダーとしての自覚が強くなった。リーダーがいなくても大丈夫と言ってももらえるような関係を作れるのが理想のリーダー像。

たけはかずき 竹部一輝 (体育学科4年・ホッケー部男子部副主将)



人の話をたくさん聞いて、自分を見直すことができ、一層リーダーとしての自覚が養われた。

かとうふみのり 加藤史典 (ヨーロッパ・アメリカ学科4年・硬式野球部)



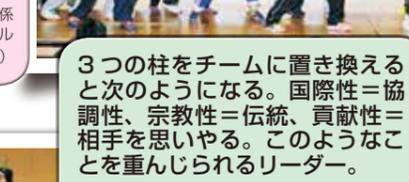
信頼されるには、リーダーがメンバー一人一人を信頼することが大切。

きたじまりな 北嶋里菜 (外国語学科3年・フォークソング同好会副会長)



いろんな部や会のリーダーとの交流を通して、自分の中にあったリーダー像に他のリーダー像を組み合わせることができた。

なかもとみつあき 中本充昭 (人間関係学科3年・競技ダンス副部長)



3つの柱をチームに置き換えると次のようになる。国際性=協調性、宗教性=伝統、貢献性=相手を思いやる。このようなことを重んじられるリーダー。

たまうらみく 玉浦未来 (ヨーロッパ・アメリカ学科4年・女子バスケットボール部主務)



「互いを尊重」「理解力」「統率力」だと思ふ。

はたとりくみこ 服部求実子 (体育学科4年・ソフトテニス)

先生方の講話を聞いて、班ごとに自分たちの考えを劇にして考え方の交換ができた。私の考えるリーダー像は、互いを思いやり、信頼し合え、言動に責任をしっかりと持てる人。

やまきあきみ 山崎麻未 (歴史文化学科3年・弓道部次期女子責任者)



周りに尊敬できる人たちがこんなにいるという環境に感謝。他を尊重して自分を信じ自信を持つという「他尊自信」の精神が大切なかなと感じた。

かわのりょうた 川野良太 (体育学科4年・3班班付き)



相手の気持ちを思い、分かり、考え、そして甘くするだけが優しさではなく、厳しくすることもその人のために必要ということ学んだ。

ふじたみ 藤田美穂 (国文学部国語学科3年・フォークソング同好会会計)

「天理大学」のリーダーとして求められるものは、常に自分だけの力じゃなく、みんなの力、神様の力があって今の自分があるということを実感していること。

いそたかずき 磯田和祐 (体育学科4年・空手部)

人とのコミュニケーションの「楽しさ」を学び、天理大学は素晴らしい人の集まりだと実感した。

よこおゆか 横尾夕夏 (体育学科3年・女子ハンドボール部)



初めて会う仲間と3日間、同じテーマに向かって話し合っ、良い環境を共有できた。

さきのかずき 笹野和紀 (体育学科3年・サッカー部)